静岡大学　情報学部
情報社会学科
高校生へのニューズレター
第 2 号（2012.11）

情報社会学科は就職快調！

この号の内容

1 情報社会学科は就職快調！
—就職に活かせる情報社会学科の教育内容—

2 笹原恵研究室紹介
（社会学・女性学）

3 厨子光政研究室紹介
（異文化コミュニケーション）

4 広域自治体の調査と分析
—地域の実情を詳しく知るために
（深澤元彦）

就職に活かせる情報社会学科の教育内容

情報社会学科の豊かな教育内容・手厚い就職指導が地域の企業に評価され、就職は安定して高水準にあります。特に、静岡・愛知・岐阜・長野などの有名企業への就職に強いです。たとえば、以下の企業への就職が決まりました。（掲載は昨年と今年の一部のみ）

・スズキ　・浜松信用金庫　・NTT データ東海　・遠州鉄道

・JR 東海　・浜松商工会議所　・浜松信用金庫　・鈴与

もちろん、**yahoo!・三菱東京 UFJ 銀行・小糸製作所・デンソー・中部ガス**など全国の有名企業にも就職しています。

また、公務員になる人もいます。昨年と今年だけでも、以下のところに就職が決まりました。

・静岡県庁　・愛知県庁　・静岡市役所　・藤枝市役所

・春日井市役所　・飯田市役所　・中野市役所

（難解な石碑文解読も、地域貢献のひとつ）

" 自分自身を見つめ、自分の適性や興味があることを見つけてほしい "

笹原恵研究室（社会学・女性学）

皆で食べたり飲んだり
することも
大切にしています

Q：笹原先生はどのような研究をしているのですか。

A：インタビューや調査票を使った調査（アンケート）を通して、家族や地域、コミュニティ、職場などにおける人と人との関係性を研究しています。浜松市の住民自治組織の調査を通して、この地域やコミュニティがどのような人と人との関係性の上に成立しているのかを明らかにしようとしています。

Q：その研究は情報社会でどのように活かされていますか。

A：情報技術が発達し重要なコミュニケーションツールになった今日においても、社会の主体である人間やコミュニティへの深い洞察は依然として重要だと思います。コミュニケーション力が求められる今日において、他者理解は特に必要とされている方法であるように思います。

Q：笹原ゼミでは学生はどのような研究をしているのですか。

A：ある学生は浜松市内の、地域組織の参与観察やインタビューを通して、地域住民がどのようにしてまちづくりを進めているのかを研究しています。またある学生は「不登校」の子どもたちがなぜ学校に行かない・行けないのかを、当事者や家族などへのインタビューを通して考えようとしています。

Q：卒業生はどういう方面で活躍していますか。

A：市役所や金融機関、一般企業など就職先はさまざまですが、総合職や営業、広報などに就いている卒業生が多いです。

　調査を通して学んだ「人との接し方」や「社会学的なものの見方」が、仕事に活かされているように思います。

" できるだけ、活字に触れる習慣を身につけてください "

厨子（ずし）光政研究室（異文化コミュニケーション）

国際社会に羽ばたく
素養を身につけよう

Q：厨子先生はどのような研究をしているのですか。

A：国が違えば考え方や価値観も異なります。ところが人はみんな、自分の判断基準が正しいと思い込んでいるので、いろいろな摩擦や誤解が生じます。このようなトラブルを避け、文化を超えてスムーズに交流できる方法を考えています。

Q：厨子ゼミでは学生はどのような研究をしていますか。

A：学生の卒業研究は多様です。日本とアメリカのディズニーランドの接客コミュニケーションの違いとか、日本とアメリカのファッション雑誌を比較して、コピーの言葉、色づかい、モデルのポーズなどから文化的違いを探るとか、それぞれが関心を持ったことをやっています。

Q：ゼミの雰囲気はどういう感じでしょうか。

A：楽しく、厳しく、お互いを気づかいながらみんな仲良く、がモットーです。もちろん真面目な文献を読んでいますが、発表や質疑応答には笑いがたえません。みんな自由な雰囲気の中で、読んで、まとめて、発表する練習をしています。

Q：卒業生はどういう方面で活躍していますか。

A：出身地の市役所、県内の大手企業である鈴与の本社、静岡駅ビル（パルシェ）に入る店舗とビル全体を管理する会社など、地元で就職して活躍している人が増えています。

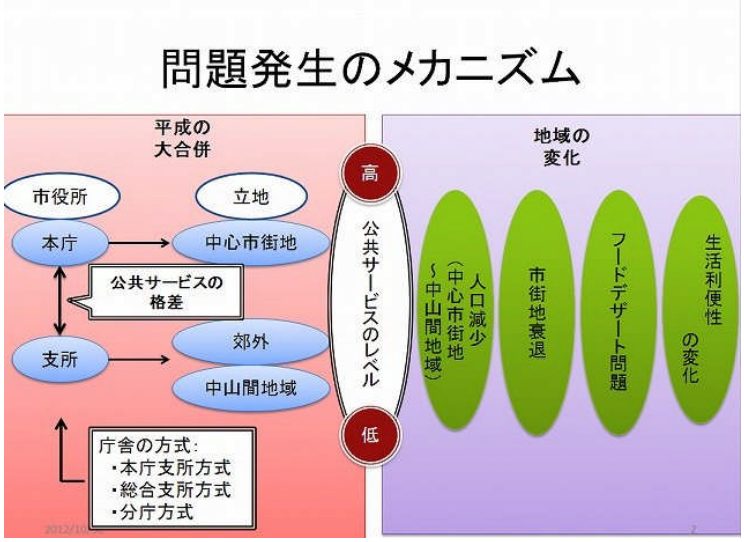
広域自治体の調査と分析―― 地域の実情を詳しく知るために

深澤 元彦　（情報社会学科　４年）

皆さんこんにちは。大学生の集大成である卒業研究に私が今どのように取り組んでいるのかについて、紹介します。

私の研究テーマは「広域合併自治体における本庁・支所地区の人口増減分析－東海４県自治体を事例に－」です。広域自治体とは、「平成の大合併」によって誕生した、面積の大きい自治体を指します。広域自治体が誕生したことで自治体が本庁と支所に分けられ、中心（本庁地区）と周辺（支所地区）の格差拡大が問題視されるようになりました。事実、合併後に本庁は職員も増えてサービスが充実してきているものの、支所が縮小され人員が削減されているのが現状です。行政サービス等の中心・周辺の格差と人口増減がどのように関連しているのかを私は研究しています。

合併後の地域の実情を知るために、天竜地区の前自治会長さんにインタビューも行ないました。



天竜区前自治会長さんと共に

浜松市中心部から離れた天竜区には行政の目が行き届かないことも増えたので、前自治会長さんが中心となって NPO「阿多古川環境保全協議会」を立ち上げた話をうかがいました。その活動が成果を生んで、阿多古川は「名水百選」に選ばれ、地元にとっても喜びとなっています。また、南区の中田島砂丘の砂の飛散を防ぐために、阿多古川の竹の枝を活用して「堆砂垣（たいさがき）」を作ったことを紹介されました。天竜区での活動が同じ浜松市の南区に広がって実を結んだので、天竜区の人々にとっても、市民協働の観点からも、住民が自ら考え、働きかける活動は意義のあることだと思いました。

さらに進んで一般住民の方々にもアンケート調査も行ない、地域の実情をより詳しく知りたいと思っています。

静岡大学情報学部　広報委員会
〒432-8011　静岡県浜松市中区城北３－５－１
電話番号:053-478-1510　FAX 番号:053-478-1513
電子メール: pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp